

第46期事業報告書

北野生涯教育振興会は、「いつでも・どこでも・だれでも学べる」体制をつくるという理念にもとづき、生涯教育を目的とした我国最初の財団法人として昭和50年6月文部省(現文部科学省)の認可を得て設立されました。

当財団は、平成22年12月1日付で公益財団法人に移行しましたので、平成30年10月1日から令和元年9月30日までが公益財団法人として9期目となりました。

第46期は、事業計画に基づき概ね計画どおり実施いたしました。

以下、事業項目毎に第46期の実施状況を報告いたします。

1. 生涯教育に関する助成事業

生涯教育の振興を図るために、広く生涯教育に関する機関、研究者等及び生涯教育に関する事業を行っている団体に対して助成を行い、その成果を通して豊かな人間性を涵養し地域社会の発展に寄与することを目的とした事業

(1) 公益財団法人 日本生産性本部主催の「生産性の船」への招聘

この研修は、第一線のリーダー、若手中堅スタッフ、管理者を対象に行われ、規律ある集団生活と訓練などの自主的運営を通じてリーダーシップの開発を図ると共に、海外企業視察等による現地人との交流や文化の違いを実感することで、国際的視野をもった人材の育成を目的とするもので、参加者の意識改革に大きな成果を上げています。当財団としては、生涯教育の一環として第2期(昭和51年)より毎年実施しており、今期12名を加え、延べ356名の方を招聘しました。

対 象 船 生産性の船 2都市コース

平成30年 2号船(シンガポール・ホーチミン) 7名

令和1年 1号船(シンガポール・バンコク) 5名

(2) 研究助成金の交付

生涯教育の観点から調査、研究をしている機関・研究者等を応援し、その研究成果を社会に還元するということにより多くの人々が豊かな人生を送ることができるようになり、よりよい社会を形成することを目的とし、調査・研究費用の一部を助成いたします。

昭和51年より実施しており、今期は10名に交付し、総数119名となりました。

(3) 図書寄贈

図書は豊かな人格形成の糧となるものです。読書離れが進む中、小中学校のころより図書に親しんで学ぶ楽しみを体得してもらいたいとの思いから、小中学校等へ図書を寄贈しています。今期は、目黒区の公立小・中学校へ希望図書を486冊寄贈しました。

さらに今期も継続して、東日本大震災の復興支援として東北の3か所(気仙沼、松島、いわき)にある小・中学校等に851冊、熊本県益城町の小・中学校にも272冊、新たに豪雨災害にあった東広島市の小・中学校に185冊、他3市に947冊を寄贈し、寄贈累計16,995冊となりました。また、財団編集の下記図書を全国の図書館や教育機関及び当財団関係先約300ヶ所に寄贈しました。

出版社：ぎょうせい

図書名：「私の平成」

(4) 途上国支援

教育事業の支援を行い教育の環境整備も行っているフィリピンの現地のNGO・特定非営利法人ミンダナオ子ども図書館の活動に賛同し、ミンダナオの保育所建設を助成してきました。今期は、建設した保育所が老朽化している為に、4棟の補修工事を助成しました。

(5) その他 (アーティスト派遣、パレットプログラム)

豊かな人生を歩むための基礎作りとして、小・中学生のためにプロのアーティストを派遣し直接触れ合うことで学ぶ楽しみや、本物の世界を経験する機会を提供しています。今期も声楽家を目黒区の公立小・中学校に派遣し、復興支援の気仙沼といわきに加え、熊本県益城町にも派遣いたしました。また、映像の世界を勉強するメディアアーティストを、気仙沼、松島町、いわきと熊本県益城町へ派遣する助成を行ないました。

さらに、目黒区の演劇及びダンスのワークショップ(パレットプログラム)へ助成しました。

2. 学習者に対する奨学助成事業

生涯学習を実践する方に対し奨学金を給付し、勉学を経済的、精神的に支援することにより、心身の健全な発展に寄与し、豊かな人間性を涵養し、よりよい社会の形成に寄与することを目的とする事業

(1) 科目等履修生奨学金

生涯教育の柱の一つであるリカレント教育の一環として、大学、大学院において科目等履修生として1年間受講する方の中から、選考された方に一律20万円を奨学金として援助するもので、今期は17名に交付しました。交付者総数は、656名となりました。

◎ 第44回 科目等履修生奨学金

人員 17名(大学院 5名 大学 12名)

(2) 放送大学奨学金

生涯教育の柱の一つであるリカレント教育の一環として、放送大学で学ぶ30歳以上の方または会社・官公庁等において実務経験5年以上を有する方を対象として、奨学金を給付しました。また平成30年3月に(1)科目等履修生と(2)②放送大学修士全科生による成果発表会を開催しました。学んだ成果などの報告を受け、奨学生同士の相互交流を図りました。

① 選科履修生奨学金

選科履修生として学ぶ方に、一律1人7万円を奨学金として支給するもので、平成9年よりスタートし、今期(第23回)14名に交付し、交付者総数は365名となりました。

② 放送大学大学院修士全科生奨学金

放送大学大学院修士全科生として学ぶ方に、一律1人20万円を奨学金として支給するもので、平成14年よりスタートし、今期(第18回)は17名に交付し、交付者総数は140名となりました。

(3) 彫刻奨学生奨学金

生涯教育のテーマのひとつである芸術分野のうち特に多額の製作費を要する彫刻芸術を志す学生、研究生で成績優秀な方に対し、一定額を奨学援助しました。今期は、日本大学芸術学部、多摩美術大学、女子美術大学の3校を奨学生の対象としました。3校の中から5名に奨学金を交付し、交付者総数は129名となりました。奨学生の5作品は、財団創設者北野隆春のふるさと山梨県笛吹市境川町「藤壘の滝大窪いやしの杜公園」へ3月に設置します。平成30年12月には奨学生の作品展が日本大学芸術学部にて行われました。

40周年記念事業の一つとして、目黒区の中目黒公園に寄贈設置した彫刻については、本体及びその周辺のメンテナンスを行うなど環境を維持しています。

(4) 外国人奨学生奨学金

平成11年から中国の天津市にある南開大学の学生を対象にした奨学金事業を開始し、平成15年から天津大学、平成18年から広州市にある広東工業大学、平成19年からベトナムの国立農業大学とズンサ高校、平成22年からフィリピンミンダナオ子ども図書館で行っているスカラシップに対して、平成27年からベトナム財務経営管理大学へ、平成28年から新たにインドネシアのポリネス大学に奨学金を授与しました。今期、奨学生総数は1,273名となりました。

(5) 音楽奨学生奨学金

生涯教育のテーマのひとつである芸術分野の中から、音楽芸術を志す学生、大学院生等で成績優秀な方に対して一定額を奨学援助しました。平成21年からスタートし、平成23年からは1名増員し3名に奨学金を授与し、総数31名となりました。

成果発表の場として、当財団の総会にて演奏会を設けています。

3. 講演会・研修会等の開催事業

より豊かな生きがいを求める人々に対し、「いつでも、どこでも、だれでも学べる」機会を提供することにより、健康で豊かな知識と情操を有する人材の育成に寄与するとともに、生涯教育の啓蒙を図る事業

(1) 講演会

生涯学習の機会提供の意味から、多分野に渡って講師を招いて講演会を開催しています。今期は、あらたに舞台芸術に着目し「バレエ」に親しむを開催しました。また、伝統文化シリーズとして「能」「狂言」「文楽」「歌舞伎」「雅楽」を順に開催しており「能」に親しむを開催しました。

開催日	テーマ	講師	場所
平成30年 12月8日(土) 12月16日(日)	舞台芸術「バレエ」に親しむ ー初めてのバレエ鑑賞、「ザ・カブキ」ー 1. バレエ史概略 2. バレエダンサーによるバレエ解説 3. 「ザ・カブキ」の作品と見所紹介 4. バレエ鑑賞「ザ・カブキ」	東京バレエ団 岩永 智博 氏	中目黒GT プラザ ホール 東京文化 会館
令和元年 6月29日(土)	伝統文化「能」に親しむ ー能の話し・簡単な能の所作の体験と舞の鑑賞ー 5. 能・狂言のおいたちの話し 6. 能の情景写真と劇中のことば 7. 基本動作の体験 能の発声や足の運びなど 8. 能の舞の鑑賞 「羽衣・和合の舞」「清経」 9. 質疑応答	観世流能楽師 梅若会 井上 療治 氏	めぐろ パーシモン ホール 小ホール

(2) 研修会

現在の研修は、美術研修、伝承研修、歴史研修、ライフプラン研修、音楽研修の5つを実施しております。

① 美術研修

イ) 美術館めぐり：各回ごとにテーマを定めて、専門講師の説明を受けながら、美術館等でアート作品を鑑賞（年2回）しました。

ロ) デジタル一眼レフカメラ入門：入門編として、構図やカメラの設定について学び、撮影会で実践指導を受け、その作品の写真展を行いました。

開催日	テーマ	講師・訪問美術館等
平成31年3月1日	美術鑑賞（その58） 熱海・根府川の美術館をたずねて	美術研究家 沼辺 信一 氏 ・MOA美術館 ・澤田政廣記念美術館 ・江之浦測候所

令和元年8月27日 ～28日	美術鑑賞（その59） あいちトリエンナーレ2019を たずねて	美術研究家 沼辺 信一 氏 ・名古屋市美術館 ・愛知県美術館 ・豊田市美術館 ・メナード美術館
令和元年9月3日 ～4日	デジタル一眼レフカメラ入門 6回目 湯河原・熱海にて実施	日本大学芸術学部専任講師 穴吹 有希 氏 ・万葉公園 ・熱海駅周辺 ・アカオハーブ&ローズガーデン

② 伝承研修

時の流れの中で脈々と生きてきた古きよきものを次世代に伝承していきたいとの思いから「伝承研修」という事業を行っております。失われつつある日本の精神文化を求めて「偉人のふるさとを訪ねて」と題して行っております。

今期は、薩摩藩のリーダーとして討幕に向けて活躍した西郷隆盛の波乱に満ちた生涯と、西郷隆盛や大久保利通らの才能を見出し、また集成館事業を推し進め、日本の近代化に大きく貢献した、薩摩藩藩主 島津斉彬の足跡を辿りました。

開催日	テーマ	訪問地
令和元年7月15日 ～16日	偉人のふるさとを訪ねて「鹿児島編」	仙巖園、尚古集成館、 照国神社、 知覧武家屋敷庭園、他

③ 歴史研修

日本の文化遺産である城を訪ね、現場で専門家に解説をいただきながら「城」を通して歴史を学びます。

今回は「伊予の城めぐり」と題し、現存する天守をはじめ多くの重要文化財を持つ松山城、桜の名所である湯築城址、宇和島城、大洲城を訪問しました。

開催日	テーマ	講師
平成31年3月28日 ～29日	伊予の城めぐり（松山城・湯築城・ 宇和島城・大洲城）	静岡大学名誉教授 小和田 哲男 氏

④ ライフプラン研修

「人生 100 年時代」と言われている今日、今後の人生設計においてどうすべきかを講師から学び、各自のライフプランを作成する研修を行いました。

開催日	テーマ	講師
令和元年 6 月 15 日	50代から考える 夫婦のライフプラン講座(その9)	活性化センター研究所 井上 国春氏 他

⑤ 音楽研修

平成 24 年から毎年参加者を公募により募集している合唱団で、東日本大震災から 2 年目の平成 25 年 3 月 11 日に「鎮魂コンサート」を主催して以降、フォーレを中心にコンサートを実施してきましたが、昨年の 5 回目を節目として、新たに日本の唱歌、抒情歌をテーマにしたチャリティーコンサートの第 1 回目を平成 31 年 3 月に実施しました。コンサートの入場料は全額目黒区を通じ被災地の気仙沼市へ寄附しました。

(3) 論文募集

イ) 課題決定

平成 31 年の懸賞論文の課題：「私の道草」

ロ) 今回の論文趣旨

合理性や効率化をひたすら求められる時代、誰しものが何かにつまずいたり、立ち止まったりして、ほんの少しの道草のつもりが道に迷い、道を見失い、大きな失敗となって苦勞する事もあるでしょう。あのとき道草をしていなければ、もっと別の人生を歩んでいたということすらあるかもしれません。その一方、新しい発見や思いもかけない出会いがあったということもあるのではないのでしょうか。さらに、道草と思っていたものが、いつの間にか本流となり今につながっていたり、今まさに道草の最中であつたりしているのではないのでしょうか。

そんな其々の道草での後悔、反省、もがき、出会い、学びや喜びを小論文、エッセーに綴ってもらいました。

ハ) 応募状況 応募総数 464 編

二) 入賞者氏名

賞	氏名	副題	年齢	居住地
第1席	小松崎 有美	その先にきっとあるもの	34	埼玉
第2席	坂本 ユミ子	楽しかった!	61	兵庫
	米須 清富	私の中「移民時代」	66	沖縄
	小野寺 直美	空を飛びたくて	65	千葉
第3席	山田 修	自分の道	70	神奈川
	白川 好光	我が道草人生に悔いはなし	73	埼玉
	前 真理恵	命の回り道	31	岡山
	阿部 修一	うつ病が教えてくれたこと	56	千葉
	小野村 龍	私の道草・・・途上にて	19	東京
佳作	宮崎 登美江	コンプレックスを喰らう馬	65	福岡
	八木 幸次	寄り道で食べたスイカ	44	静岡
	吉田 加代子	途中下車、前途洋々	64	福岡
	野津 波音	今私たちにできること イスラムから学ぶ	17	神奈川
	横田 真司	長い道草	60	東京
	野上 義久	私の天職である世話人という仕事について	54	東京
	三井 桃子	伝える	20	東京
	松岡 美穂	無価値に眠る価値	41	千葉
	中西 令子	線路脇の草むらで	70	モンゴル
	関本 康人	小さな車を大きな若者	32	東京

(4) 機関誌「生涯教育だより」発刊

生涯教育に関する講演、論文、当財団が行なう諸事業の案内・報告などを掲載するとともに、賛助会員の意見、感想等の発表の場とし、これを会員その他関係先に配付して生涯教育振興の一助とするもので、今期は118号より120号まで発刊しました。

(5) 生涯教育ライブラリー

生涯教育に関係深いもので、次第に私達のまわりから忘れられていくもの、伝承が望ましい文化についての図書を主体に蒐集しています。

貸借対照表

令和元年 9月30日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	116,511,751	93,766,898	22,744,853
現 金	40,285	47,258	-6,973
当座預金	522,826	1,111,420	-588,594
普通預金	112,105,290	88,764,870	23,340,420
定期預金	3,843,350	3,843,350	0
流動資産合計	116,511,751	93,766,898	22,744,853
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
基本財産普通預金	55,100,000	54,600,000	500,000
基本財産定期預金	34,856,650	34,856,650	0
投資有価証券	8,036,044,416	10,649,833,985	-2,613,789,569
借地権	318,835,500	318,835,500	0
建 物	35,817,727	37,390,877	-1,573,150
基本財産合計	8,480,654,293	11,095,517,012	-2,614,862,719
(2) 特定資産			
退職引当資産	4,500,000	9,750,000	-5,250,000
建物建造引当資産	103,860,000	109,500,000	-5,640,000
奨学・助成引当資産	1,560,218	1,560,218	0
周年事業引当資産	12,000,000	8,000,000	4,000,000
功以奨学引当資産	18,000,000	9,000,000	9,000,000
特定資産合計	139,920,218	137,810,218	2,110,000
(3) その他固定資産			
建物附属設備	4,212,050	4,771,033	-558,983
構築物	51,937	60,532	-8,595
什器備品	1,747,493	1,753,302	-5,809
電話加入権	220,300	220,300	0
その他固定資産合計	6,231,780	6,805,167	-573,387
固定資産合計	8,626,806,291	11,240,132,397	-2,613,326,106
資産合計	8,743,318,042	11,333,899,295	-2,590,581,253
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	8,300,000	6,400,000	1,900,000
預り金	36,842	189,519	-152,677
流動負債合計	8,336,842	6,589,519	1,747,323
2. 固定負債			
役員退職引当金	4,500,000	9,750,000	-5,250,000
固定負債合計	4,500,000	9,750,000	-5,250,000
負債合計	12,836,842	16,339,519	-3,502,677
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	131,840,218	111,340,218	20,500,000
投資有価証券受贈益	6,164,383,624	8,385,279,415	-2,220,895,791
借地権受贈益	318,835,500	318,835,500	0
建物受贈益	30,088,503	31,506,283	-1,417,780
指定正味財産合計	6,645,147,845	8,846,961,416	-2,201,813,571
(うち基本財産への充当額)	(6,635,587,627)	(8,837,401,198)	(-2,201,813,571)
(うち特定資産への充当額)	(9,560,218)	(9,560,218)	(0)
2. 一般正味財産	2,085,333,355	2,470,598,360	-385,265,005
(うち基本財産への充当額)	(1,845,066,666)	(2,258,115,814)	(-413,049,148)
(うち特定資産への充当額)	(125,860,000)	(118,500,000)	(7,360,000)
正味財産合計	8,730,481,200	11,317,559,776	-2,587,078,576
負債及び正味財産合計	8,743,318,042	11,333,899,295	-2,590,581,253

貸借対照表内訳表

令和元年 9月30日現在

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	収益事業 会計	法人会計	内部取引 消去	合 計
I 資産の部					
1. 流動資産					
現金預金	79,707,340		36,804,411		116,511,751
現 金	40,285		0		40,285
当座預金	522,826		0		522,826
普通預金	75,300,879		36,804,411		112,105,290
定期預金	3,843,350		0		3,843,350
流動資産合計	79,707,340		36,804,411		116,511,751
2. 固定資産					
(1) 基本財産					
基本財産普通預金	55,100,000		0		55,100,000
基本財産定期預金	34,856,650		0		34,856,650
投資有価証券	2,172,653,568		5,863,390,848		8,036,044,416
借地権	223,184,850		95,650,650		318,835,500
建物	25,072,385		10,745,342		35,817,727
基本財産合計	2,510,867,453		5,969,786,840		8,480,654,293
(2) 特定資産					
退職引当資産	0		4,500,000		4,500,000
建物建造引当資産	72,702,000		31,158,000		103,860,000
奨学・助成引当資産	1,560,218		0		1,560,218
周年事業引当資産	12,000,000		0		12,000,000
功以外奨学引当資産	18,000,000		0		18,000,000
特定資産合計	104,262,218		35,658,000		139,920,218
(3) その他固定資産					
建物附属設備	2,948,414		1,263,636		4,212,050
構築物	25,965		25,972		51,937
什器備品	3		1,747,490		1,747,493
電話加入権	220,300		0		220,300
その他固定資産合計	3,194,682		3,037,098		6,231,780
固定資産合計	2,618,324,353		6,008,481,938		8,626,806,291
資産合計	2,698,031,693		6,045,286,349		8,743,318,042
II 負債の部					
1. 流動負債					
未払金	8,300,000		0		8,300,000
預り金	0		36,842		36,842
流動負債合計	8,300,000		36,842		8,336,842
2. 固定負債					
役員退職引当金	0		4,500,000		4,500,000
固定負債合計	0		4,500,000		4,500,000
負債合計	8,300,000		4,536,842		12,836,842
III 正味財産の部					
1. 指定正味財産					
寄付金	129,440,218		2,400,000		131,840,218
投資有価証券受贈益	1,232,462,896		4,931,920,728		6,164,383,624
借地権受贈益	223,184,850		95,650,650		318,835,500
建物受贈益	21,061,939		9,026,564		30,088,503
指定正味財産合計	1,606,149,903		5,038,997,942		6,645,147,845
(うち基本財産への充当額)	(1,598,989,685)		(5,036,597,942)		(6,635,587,627)
(うち特定資産への充当額)	(7,160,218)		(2,400,000)		(9,560,218)
2. 一般正味財産	1,083,581,790		1,001,751,565		2,085,333,355
(うち基本財産への充当額)	(911,877,768)		(933,188,898)		(1,845,066,666)
(うち特定資産への充当額)	(97,102,000)		(28,758,000)		(125,860,000)
正味財産合計	2,689,731,693		6,040,749,507		8,730,481,200
負債及び正味財産合計	2,698,031,693		6,045,286,349		8,743,318,042

正味財産増減計算書

平成30年10月 1日から令和元年 9月30日まで

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	142,397,982	129,675,964	12,722,018
基本財産受取利息	14,084,932	14,194,219	-109,287
基本財産受取配当金	128,313,050	115,481,745	12,831,305
特定資産運用益	1,084,156	1,200,800	-116,644
特定資産受取利息	600,823	1,200,800	-599,977
特定資産運用益	483,333	0	483,333
受取会費	306,530	324,050	-17,520
賛助会員受取会費	306,530	324,050	-17,520
受取負担金	6,003,854	5,750,346	253,508
受取負担金	6,003,854	5,750,346	253,508
固定資産受増益	1,417,780	1,484,587	-66,807
建物受増益	1,417,780	1,484,587	-66,807
雑収益	172,583	250,947	-78,364
受取利息	2,135	2,903	-768
雑収益	170,448	248,044	-77,596
経常収益計	151,382,885	138,686,694	12,696,191
(2) 経常費用			
事業費	96,755,052	89,388,542	7,366,510
役員報酬	3,030,980	1,806,028	1,224,952
給料手当	9,382,284	9,000,004	382,280
通勤費	30,100	162,554	-132,454
退職給付費用	646,398	0	646,398
福利厚生費	569,253	640,672	-71,419
会議費	2,549,688	2,303,256	246,432
旅費交通費	11,493,659	12,249,160	-755,501
通信運搬費	1,018,454	1,013,373	5,081
減価償却費	1,496,800	1,531,253	-34,453
消耗什器備品費	81,000	81,000	0
消耗品費	349,093	284,383	64,710
修繕費	94,500	196,560	-102,060
図書文献費	4,956	7,740	-2,784
印刷製本費	6,095,170	6,149,820	-54,650
光熱水料費	515,491	540,259	-24,768
賃借料	3,110,056	1,791,838	1,318,218
保険料	15,428	11,424	4,004
諸謝金	2,944,189	3,232,185	-287,996
租税公課	1,000	1,200	-200
支払負担金	5,000	13,420	-8,420
支払助成金	27,621,106	22,710,317	4,910,789
支払寄附金	238,600	232,000	6,600
支払奨学金	16,829,000	17,421,606	-592,606
委託費	8,190,409	7,587,685	602,724
渉外費	299,513	330,805	-31,292
雑費	142,925	90,000	52,925

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
管理費	21,509,060	23,117,919	-1,608,859
役員報酬	6,598,991	5,974,012	624,979
給料手当	4,020,979	3,857,144	163,835
通勤費	12,900	69,666	-56,766
退職給付費用	277,027	0	277,027
福利厚生費	243,965	274,573	-30,608
会議費	1,337,607	1,318,890	18,717
旅費交通費	354,030	356,580	-2,550
通信運搬費	480,162	461,786	18,376
減価償却費	649,737	665,622	-15,885
消耗什器備品費	64,203	994,275	-930,072
消耗品費	620,413	1,091,453	-471,040
修繕費	90,850	344,520	-253,670
図書文献費	92,572	105,216	-12,644
印刷製本費	232,251	169,099	63,152
光熱水料費	220,925	231,540	-10,615
賃借料	1,213,738	2,553,756	-1,340,018
保険料	96,200	96,200	0
諸謝金	1,036,800	1,036,800	0
租税公課	173,200	173,000	200
支払負担金	73,155	81,000	-7,845
諸会費	394,000	374,000	20,000
委託費	2,798,424	2,598,847	199,577
渉外費	203,776	73,552	130,224
雑費	223,155	216,388	6,767
経常費用計	118,264,112	112,506,461	5,757,651
評価損益等調整前当期経常増減額	33,118,773	26,180,233	6,938,540
基本財産評価損益等	-412,893,778	-13,831,540	-399,062,238
基本財産評価損益等	-412,893,778	-13,831,540	-399,062,238
特定資産評価損益等	-5,490,000	-860,000	-4,630,000
特定資産評価損益等	-5,490,000	-860,000	-4,630,000
評価損益等計	-418,383,778	-14,691,540	-403,692,238
当期経常増減額	-385,265,005	11,488,693	-396,753,698
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	-385,265,005	11,488,693	-396,753,698
一般正味財産期首残高	2,470,598,360	2,459,109,667	11,488,693
一般正味財産期末残高	2,085,333,355	2,470,598,360	-385,265,005
II 指定正味財産増減の部			
受取寄附金	20,500,000	20,600,000	-100,000
受取寄附金	20,500,000	20,600,000	-100,000
基本財産評価益	-2,220,895,791	63,957,370	-2,284,853,161
基本財産評価益	-2,220,895,791	63,957,370	-2,284,853,161
一般正味財産への振替額	-1,417,780	-1,484,587	66,807
一般正味財産への振替額	-1,417,780	-1,484,587	66,807
当期指定正味財産増減額	-2,201,813,571	83,072,783	-2,284,886,354
指定正味財産期首残高	8,846,961,416	8,763,888,633	83,072,783
指定正味財産期末残高	6,645,147,845	8,846,961,416	-2,201,813,571
III 正味財産期末残高	8,730,481,200	11,317,559,776	-2,587,078,576

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

- (1) 投資有価証券の評価基準及び評価方法について
 時価のある有価証券については、期末日の市場価格等に基づく時価法（売却原価は移動平均法により算定）によっている。
- (2) 固定資産の減価償却について
- ①有形固定資産
- 建物 定率法によっている。なお、平成10年4月1日以降に取得した建物は定額によっている。
- 建物附属設備 定率法によっている。
- 構築物 定率法によっている。
- 什器備品 定率法によっている。
- ②無形固定資産
- ソフトウェア 定額法によっている。
- (3) 引当金の計上基準について
- 役員退職引当金 内規に基づく期末要支給額に相当する金額を計上している。
- (4) 消費税等の会計処理について
- 消費税等の会計処理は、税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
普通預金	54,600,000	20,500,000	20,000,000	55,100,000
定期預金	34,856,650			34,856,650
投資有価証券－株式	9,969,923,985		2,640,682,569	7,329,241,416
投資有価証券－国債等	679,910,000	226,893,000	200,000,000	706,803,000
借地権	318,835,500			318,835,500
建物	37,390,877		1,573,150	35,817,727
小 計	11,095,517,012	247,393,000	2,862,255,719	8,480,654,293
特定資産				
退職引当資産	9,750,000		5,250,000	4,500,000
建物建造引当資産	109,500,000	100,000,000	105,640,000	103,860,000
奨学助成引当資産	1,560,218			1,560,218
周年事業引当資産	8,000,000	4,000,000		12,000,000
リカレント奨学引当資産	9,000,000	9,000,000		18,000,000
小 計	137,810,218	113,000,000	110,890,000	139,920,218
合 計	11,233,327,230	360,393,000	2,973,145,719	8,620,574,511

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応す る額)
基本財産				
普通預金	55,100,000	(55,100,000)		
定期預金	34,856,650	(26,700,000)	(8,156,650)	
投資有価証券	8,036,044,416	(6,204,863,624)	(1,831,180,792)	
借地権	318,835,500	(318,835,500)		
建物	35,817,727	(30,088,503)	(5,729,224)	
小 計	8,480,654,293	(6,635,587,627)	(1,845,066,666)	(0)
特定資産				
役員退職引当資産	4,500,000			(4,500,000)
建物建造引当資産	103,860,000	(8,000,000)	(95,860,000)	
奨学助成引当資産	1,560,218	(1,560,218)	(0)	
周年事業引当資産	12,000,000		(12,000,000)	
リカレント奨学引当資産	18,000,000		(18,000,000)	
小 計	139,920,218	(9,560,218)	(125,860,000)	(4,500,000)
合 計	8,620,574,511	(6,645,147,845)	(1,970,926,666)	(4,500,000)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
建物	124,460,154	88,642,427	35,817,727
建物附属設備	11,286,000	7,073,950	4,212,050
構築物	354,600	302,663	51,937
什器備品	4,979,293	3,231,800	1,747,493
ソフトウェア	1,232,615	1,232,615	0
合 計	142,312,662	100,483,455	41,829,207

5. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

内 訳		
経常収益への振替額		
減価償却費計上による振替額		1,417,780
合 計		1,417,780

6. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	その他	
役員退職引当金	9,750,000	0	5,250,000		4,500,000

附 属 明 細 書

1. 基本財産及び特定資産の明細
財務諸表に対する注記2に記載している。
2. 引当金の明細
財務諸表に対する注記6に記載している。

特定資産の取崩し及び積立てについて
(平成30年10月1日から令和元年9月30日まで)

当事業年度における、特定資産の取崩し及び積立ての内容は以下のとおり。

項 目	金 額	備 考
特定資産取崩収入		
収入計 (A)	0 円	
特定資産積立支出		
周年事業積立支出	4,000,000 円	
奨学助成積立支出	9,000,000 円	リカレント奨学金
支出計 (B)	13,000,000 円	
(A) - (B)	-13,000,000 円	

財産目録

令和元年 9月30日現在

(単位:円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
(流動資産)	現金 預金	手元保管	運転資金として	40,285
	当座預金	三井住友銀行 新橋支店	運転資金として	522,826
	普通預金	三菱東京UFJ銀行 祐天寺支店	運転資金として	112,105,290
	定期預金	三井住友銀行 新橋支店	運転資金として	3,843,350
流動資産合計				116,511,751
(固定資産) 基本財産	普通預金	三菱東京UFJ銀行 祐天寺支店	基本財産に用途を特定されている 寄附財産	55,100,000 55,100,000
	定期預金	三菱東京UFJ銀行 祐天寺支店	基本財産に用途を特定されている 寄附財産	34,856,650 14,000,000
		三菱東京UFJ銀行 祐天寺支店	公益目的保有財産として運用益を 事業に使用している	2,700,000
		三井住友銀行 新橋支店	公益目的保有財産として運用益を 事業に使用している	18,156,650
		投資有価証券	スタンレー電気株式 野村証券	管理運用用財産として運用益を管 理運営に使用している 公益目的保有財産として運用益を 事業に使用している
	借地権	国外債11 野村証券	公益目的保有財産として運用益を 事業に使用している	1,465,850,568
		大和証券	基本財産に用途を特定されてい る寄附財産	706,803,000 39,962,000
		宅地 229.75㎡ 目黒区五本木1-12-16	公益目的保有財産として使用して いる 管理運用用財産として管理運営に 使用している	318,835,500 223,184,850 95,650,650
		建物	373.81㎡ 目黒区五本木1-12-16	公益目的保有財産として使用して いる 管理運用用財産として管理運営に 使用している

特定資産	退職引当資産	定期預金 三菱東京UFJ銀行 祐天寺支店	常勤従業員の退職金の支払資金として管理されている預金	4,500,000
				4,500,000
	建物建造引当資産	国債等 ムジヨ-ロッパファイナンス債等		103,860,000
			公益目的事業に使用する建物の老朽化に伴う建造のため資産取得資金として管理されている資産	95,860,000
			管理運営に使用する建物の老朽化に伴う建造のため資産取得資金として管理されている資産	67,102,000
		定期預金 三菱東京UFJ銀行 祐天寺支店	公益目的事業に使用する建物の老朽化に伴う建造のため資産取得資金として管理されている資産	28,758,000
	奨学助成引当資産	普通預金 三菱東京UFJ銀行 祐天寺支店	公益目的事業に使用する建物の老朽化に伴う建造のため資産取得資金として管理されている資産	8,000,000
			管理運営に使用する建物の老朽化に伴う建造のため資産取得資金として管理されている資産	5,600,000
			奨学助成事業に用途を特定されている積立資産	2,400,000
	周年事業引当資産	普通預金 三菱東京UFJ銀行 祐天寺支店	周年記念事業の積立資産であり、特定費用準備金として管理されている預金	1,560,218
リカレント奨学引当資産	普通預金 三菱東京UFJ銀行 祐天寺支店	リカレント奨学事業の積立資産であり、特定費用準備資産として管理されている預金	12,000,000	
その他固定資産	建物附属設備		18,000,000	
	構築物		4,212,050	
	什器備品		公益目的事業の用に供している管理運営の用に供している	2,948,414
			公益目的事業の用に供している管理運営の用に供している	1,263,636
電話加入権		公益目的事業の用に供している管理運営の用に供している	51,937	
固定資産合計				8,626,806,291
資産合計				8,743,318,042
(流動負債)	未払金 預り金		研究助成金未払金	8,300,000
			雇用保険、源泉所得税、住民税	36,842
流動負債合計				8,336,842
(固定負債)	役員退職引当金		常勤従業員の退職金の引き当てに使用する	4,500,000
固定負債合計				4,500,000
負債合計				12,836,842
正味財産				8,730,481,200